

淀川水系流域委員会 様

志岐 常正

淀川水系流域委員会では、これまでの検討結果をまとめられると聞いておりますが、未だ私どもの問題意識や疑問を充分に取り上げてはいただけていないと感じます。いろいろ申し上げたいことがあります。これまではつきお話しして来なかったかと思うところにしぼり、意見といたします。

なお、これは「宇治防災を考える市民の会」としての意見ではなく、私個人の責任において申し述べるものです。

1) 大戸川ダムは、防災専用ダムとしてなら造るという選択枝があり得るように思います。現地で反対がないこと、設計、管理その他がよろしきを得れば、下流の防災にプラスの役割を果たすかもしれないこと、洪水を可能な限り早く下流に流すのではなく、上流域で溜めておく方式をいろいろ考えるべきだということその他が理由です。私も、一般論としてはダム、とくに大ダム建設には反対ですが、大戸川ダムについては、造る選択枝についても検討してはどうかと思います。

なお、他の上流域貯留方式について、近畿整備局はまともな検討をしていませんが、流域委員会でも現状ではこれが弱いと思います。たとえば信楽のゴルフ場群についてはどういう検討をされたのでしょうか。

2) 私は分水案について発言したことがあります。しかし、その具体的な内容については、「宇治防災を考える市民の会」の一部の人を除き、皆様にお話できていません。私が考えているのは藪田さんの考えとも異なり、宇治田原の水（あるいは瀬田川の水のごく一部）を、大洪水時に城陽の礫層に導くというものです。これは本来の自然の宇治川の流路に沿うものですから、自然破壊は多くの方が危惧されるほどのものにはならないと思います。また、礫層（とその中の砂利採取跡）に水を吸収させることができるので、木津川への負荷も小さいと思います。

もちろんきちんと調査をしてみなければなりません。私の願いは、この案を検討の対象にして頂けないかということです。

なんども発言しましたように、いろいろな方策、方式を組合わせ、これで 100 トン、ここで 50 トンと稼ぐことを考えれば、宇治川本流だけの「塔の島 1500 トン」案に縛られる必然性はなくなると思います。

いずれにせよ、今の検討状況は、委員会の結論をまとめられるには不十分であると考えます。